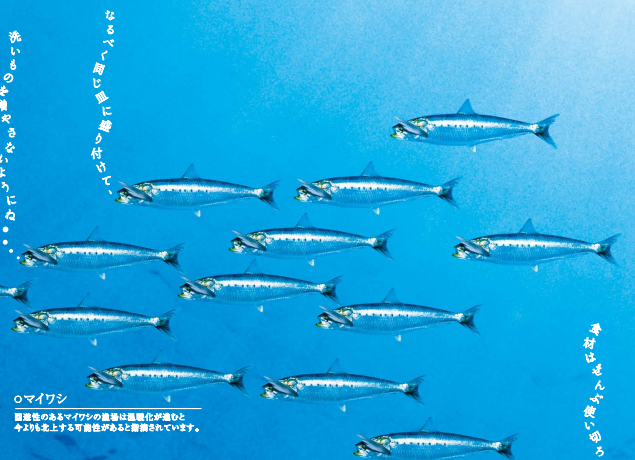


サンマもアジも、 いない、いない、ばあ。



○ニシン
北海道・小笠原などで、1955年頃から産卵量が減少しているという報告も、海水温変化も原因のひとつではないかと推測されています。



○マイワシ
産卵期のあるマイワシの産卵量は温暖化が進むと今よりも減少する可能性があると考えられています。



○サツラ
本来、日本の魚であるサツラが三島沖や青森で獲れるなど、温暖化の影響とも考えられる分布変化の報告も。



○トラフグ
産卵期のトラフグは、水温の上昇の影響で、産卵期が北上する可能性があるとも指摘されています。



○マガリ
近年、徳島半島周辺の富山、石川県の漁場では産卵量が減少しているという報告もあります。



○アナゴ
温暖化が進むと、東京近海でアナゴの産卵量が減少する恐れがあるという予測もあります。



○カツオ
九州の東シナ海に回った産卵場では、温暖化が進むと、本回産卵量が減少する恐れがあるという予測もあります。



○カマス
青森、黒川島などで、何年か2月後半から獲れるはずのカマスが、昨年11月中旬になってようやく戻りました。



○マガイ
温暖化が進むと、徳島半島周辺の富山、石川県などで、産卵量が前年以上減少する恐れがあるという予測も。



○アジ
東シナ海に回った大規模なアジでは、温暖化が進むと産卵量が減少する恐れがあるという予測も。



○スルメイカ
東シナ海に回った黒潮、親潮島嶼などの漁場では温暖化が進むと、産卵量が前年以上減少する恐れがあるという予測も。



○サバ
日本近海の大規模なサバは、14〜20度前後の水温を好むとされ、九州を中心とした西日本で、産卵量が大きく減少する恐れがあるという予測も。



○サンマ
サンマの産卵は本州の上昇とともに北上し、長期的には分布や漁期に変化が生じる可能性もあると指摘されています。



○タコ
温暖化が進むと、関東沿岸で産卵量が減少する恐れがあるとも推測されています。

朝ごはんのアジの開きや、和食の定番、サバの味噌煮。日本人の食生活になくてはならない魚たちが、地球温暖化の影響で、食卓からいなくなる時代がやってくるかもしれません。まずは、台所からできる温暖化対策があると、魚たちは私たちに訴えています。

海に開かれた国、日本。私たちの毎日の食卓に欠かせない海の幸たち。ときには季節を告げ、節目節目の行事を彩ってきた魚料理が、もうすぐ食卓から消えてしまうかもしれません。地球温暖化による海流の変化や海水温の上昇の影響で、漁場が北上している魚や、数が減ってきている魚、そして、旬がずれてきている魚たちがいるのです。私たちの食文化を支えつづけてくれた魚たちを、私たちの手で失うことになってしまいう前に。

目をつぶっていないで、はじめませんか。台所からできるちいさな温暖化対策は、いつかきっと、目に見える成果となって帰ってくるはずです。

あしたのもと
AJINOMOTO